

谷津田の四季ののらしごと ~ 秋編

大友 英寿 (千葉市稲毛区)

九月の夏編に続きまして、今回は稲刈り後の、秋の主な作業をご紹介します。

脱穀

稲刈りをしてから二、三週間、竹や木で組んだおだで干した後、脱穀をします。脱穀は、田んぼによって、千歯こきと足踏み脱穀機とハーベスター（エンジン付き自走型脱穀機。唐箕と足踏み脱穀機が一緒になった機械）の三通りでやっています。一束を脱穀するのにハーベスターだと三秒くらいですが、足踏み脱穀機だと十秒以上、千歯こきだと二十秒以上かかることもあります。

ただ、ハーベスターは危険な機械で、ちょっと気を抜くと大怪我をしてしまいます。ハーベスターに限らず、便利な道具や機械というものは、それだけ危険も大きいと感じています。はさみ、包丁、コンピューター、自動車、飛行機...便利で速いものほど、あっという間に凶器に変わります。ハーベスターでの脱穀は常に緊張し続けながらの作業なので、体はそれほど疲れずとも精神的にとっても疲れれます。私は足踏み脱穀機や千歯こきの方が好きです。

また、稲をおだで干している間、カマキリやイナゴなどが稲藁につくことがあります。日光浴をしているのかもしれませんが、カマキリの卵がついていることも珍しくありません。千歯こきや足踏み脱穀機なら彼らを見つけやすい分、救出もしやすいのですが、ハーベスターだと「あっ！」と気づいた時には機械の中に入ってしまい、とても心が痛みます。夏の草刈りや草取りで殺めた草の命達の草供養と一緒に、虫供養もこの時期にしています。

千歯こきや足踏み脱穀機での脱穀は、籾がばらばらと落ちる音がなにより嬉しく、耳に心地よいです。

風選

脱穀は籾を落として終わりではありません。稲藁やおだの片付けなど、付随する作業が少なからずあります。風選は脱穀に続く作業のひとつです。

脱穀した籾には藁くずや糞（しいな。実が入っていない籾）等が混じっているので、唐箕をつかってそれらを取り除きます。私は二箇所二つの唐箕を使わせていただいています。最適な回転速度で回すのにちょっと苦労します。一年に数回しか使わないので、リズムを毎年忘れてしまうのです。でも一度思い出せば、あとは藁くずなどが飛んでいくのを眺めつつ、右手はひたすら定速回転という、地味ながら楽しい作業です。

籾すり

籾から籾殻をはずし玄米にする作業です。電動籾すり機と、すり鉢の二通りでやっています。

電動籾すり機での籾すりは一時間に数十キロ、すり鉢は三分でご飯茶碗一杯分。その差は歴然としていますが、すり鉢で籾すりをするとうるさく、籾殻がいかにかたく頑丈であるかよく分かります。また、米の粒によって籾殻のはずれやすさが違い、人間の頑固比べのような感じも面白いです。

麦まき

耕さない田んぼでは、冬から春にかけて大麦を育てています。今年から裸麦も始めました。

稲の時は苗を育てるのにとても時間と手間をかけましたが、麦の種はただばらまくだけなので簡単です。一畝（三十坪、約百平米）にまくのに三分もかかりません。ただ、種をまく前に、田んぼ内の排水用の溝にたまった泥をさらう作業があります。まだ三年目なので溝に泥がたまりやすく、かなりの重労働です。でも年々、わらや草の層が少しずつ厚くなってきているので、徐々に楽になってきています。

泥をさらっていると、ザリガニやヤゴが出てきて、「寝てるんだから邪魔しないでよ～」と言われます。



「ごめんなさい、ごめんなさい」とぺこぺこしながらの作業です。...なんだか一年中謝ってばかりな気がします。

田作りはトラクターやハーベスターなどの動力機械を使うと速くできます。でも田んぼで成長する稲も虫も草も小動物も、そして私自身も、みんな生き物です。機械の使用は他の生き物との対話を少なくしてしまうものだと私は感じています。効率を上げることで他の命やその生き様が見えにくくなっている感じがしています。

稲は人間だけが育てているのではありません。お日様の光や風や雨、虫、カエル、ヘビ、クモ、魚、そして目に見えない無数の命達のつながりの中で育っています。私はほんの少し手を貸しているだけです。そして私自身も日々、田んぼに育てていただいております。

秋は夕暮れがどんどん早くなります。気温も徐々に下がり、田んぼからは虫がいなくなり、草も枯れ、どんどん茶色一色になっていきます。人が眠りにつく時のような、動から静への変化があります。一方で、元に芽をだして育つ麦の緑はとても鮮やかで、元気を貰えます。



谷津田いきもの図鑑 No.24

シジュウカラとヤマガラ

今回は谷津の斜面林でよく見かけるシジュウカラとヤマガラをご紹介します。

シジュウカラは庭先や公園でも見られます。スズメくらいの大きさの白と黒の小鳥を公園で見かけたらまずシジュウカラです。黒い頭に白い頬、ネクタイのような胸の細長い黒い線が目立ちます。オスの方がこの線が太くて慣れるとオスメスを見分けることができます。背中が灰色っぽく見えますが、よく見ると青みがかっていて首の近くは黄色とおしゃれなシックの色合いです。

春先からツツピー、ツツピーとかツープー、ツープーと同じフレーズを繰り返してさえずる声が谷津によく響き渡ります。さえずり以外の鳴き声を「地鳴き」と呼びますが、シジュウカラの地鳴きはツーツー、ツッチーなどで、人が近づくとツッチピー、ジャラジャラジャラと警戒音を発します。

木の枝だけでなく幹に垂直につかまったり、地上に降りて落ち葉をひっくり返したり忙しく動き回って餌を探している様子をよく見かけます。餌は昆虫やクモだけでなく、種子や果実も大好きで、庭に落花生などを置いておくと食べに訪れます。巣は木の穴や石垣のすき間などを使い、巣箱をかけるとうよく入るのがこのシジュウカラです。

繁殖期が終わると群れで暮らし、冬場になるとコゲラやメジロ、エナガなど他の鳥と一緒に「混群」を作って林の中を移動して餌を探します。

ヤマガラもスズメくらいの大きさの鳥で、顔の模様はシジュウカラによく似ていますが背中とお腹の茶色なので一度見たら忘れないでしょう。シジュウカラと比べると人家の近くに来る機会は多くなく、下大和田や小山ではシジュウカラより数が少ないようです。

さえずりはシジュウカラによく似ていますが、ツーツーツーピーー、ツーツーツーピーーとゆっくりと繰り返して鳴くので慣れると簡単に区別できます。地鳴きもちょっと異なり、ツイツイ、ニーニーニーと特徴的です。シジュウカラもヤマガラもまずは鳴き声でその存在を知ることができるので、さえずりや地鳴きを覚えるのがバードウォッチングのこつです。

枝に止まってドングリを足にはさんで食べている様子をよく見かけます。ヤマガラのくちばしはキリのように細く先がとがっていて、

硬いドングリも見事に割って中の実を食べることができます。特に硬いエゴノキのドングリを食べられるのは恐らくヤマガラだけで、秋にエゴノキで見かけることがよくあります。拾ったドングリをすき間などに隠すことも知られています。

ヤマガラは芸を覚えることができることから平安の昔から飼育されていて、ひと昔前は神社の境内などでおみくじ引きの芸を披露していたそうです。ヤマガラにコインを渡すとくわえて賽銭箱に落とし、鈴を鳴らしてお宮の扉を開けておみくじを取り出し、戻ってきておみくじの封を開けてくじを取り出すという芸ができるのは驚きです。



アシに止まるシジュウカラ (田中正彦)



足にエゴノキのドングリをはさんで食べるヤマガラ (高山邦明)



里山たんけんレポート

第106回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2008年11月2日(日) 晴れ

今日の観察会は YPP(谷津田プレーランドプロジェクト)の MY 田んぼ古代米の稲刈りと同時開催となり、それぞれ希望の方へ参加していただきました。

花も虫も少なくなりましたが、カントウヨメナ、シロヨメナ、シラヤマギクなど野菊が咲き、谷津へ入る林縁の土手にはリンドウやヤクシソウの群落が見られました。様々な引付き虫も盛り、鉤で衣服に付くイノコズチの仲間、ヌスビトハギ、オナモミなど、粘液で付くメナモミ、チジミザサなどなど。虫ではコバネイナゴ、カマキリの仲間がまだまだ頑張っていました。オオカマキリとチョウセンカマキリの違いを手にとって確認したり、コカマキリの腕輪を見たりしました。ノシメトンボ以外のアカトンボが少なく気懸かりです。ホオジロをスコープでじっくり見ることもできました。冬鳥のはしり、アオジやジョウビタキの声を聞きながら、秋の色に染まった谷津田を巡りました。

(参加者 大人6名、子ども1名; 報告: 網代春男)

第90回 下大和田 YPP「みんなでサクサク! 古代米の稲刈り」

2008年11月2日(日) 晴れ

三連休の中日とあってどれくらいのお手伝いがあるか不安だったのですが、次々と参加者が訪れ、気がつくやうに古代米田んぼは人で一杯でした。久しぶりに下大和田に来た方もあって刈りながら話に花が咲きます。顔なじみの子どもたちは大人顔負けの慣れた手つきで、鎌からサクッ、サクッとよい音が聞こえてきます。今年は緑米の生育が驚くほど良く、片手で握れないほどに分けつが進んでいる株もありました。午前中に緑米を刈り終え、午後は赤米と黒米を刈りました。こちらは緑米と反対に生育が今ひとつでちょっと残念です。

無事刈り終えて最後にみんな笑顔で記念撮影をして解散しました。

(参加者 大人22名、小学生6名、幼児4名 報告: 高山邦明)



番外 下大和田 YPP「古代米の脱穀」

2008年11月15日(土) くもり時々晴れ時々微雨

11月2日までに刈った古代米の脱穀をしました。稲刈りのあと雨が多かったのですが、幸い脱穀の二日前から晴れ、当日は雨がときおりわずかに降っただけで作業には支障ありませんでした。

問題だった(?)のは緑米のわら束の多さです。どう見てもいつもより多く、「はたして脱穀が一日で終わるのか?」と不安でした。でも常連メンバーに加え、千葉大学の学生ボランティアさん2名、そしてお昼にいただいたおいしいお味噌汁のおかげで、おだやわら束の片付けも次々終わり午後4時過ぎに無事完了。わら束にはイナゴやカマキリ、カマキリの卵、クモなどもたくさんついていて、「え~、もうわらを片付けちゃうの?」と文句を言われましたが、「また来年、どうぞよろしく願いいたします」とお詫びしました。

今年も大きな怪我や事故なく、無事に田んぼでの作業を終えられましたことを感謝いたします。

(参加者 大人8名、大学生2名、小学生1名; 報告: 大友英寿)



番外 小山町 YPP「古代米の脱穀」

2008年11月20・21日(日) 晴れ

いつものように足踏み脱穀機を使って脱穀しました。ガ~コン、ガ~コンと脱穀機が回る音、バラバラバラ...と落ちる籾の音が静かな谷津に響きます。足踏みだとワラくずがたくさん混じってしまうので唐箕にかけてくずを飛ばしました。昔ながらの方法ですが小山の YPP 田んぼの収穫にはこれがちょうどいいようです。

(参加者 大人6名; 報告: 高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 11月1日 ジョウビタキの声があちこちから聞こえる(高山)
- 11月9日 アオジとツグミの声がした(高山)
- 11月12日 休耕田に10羽ものキジがいた(松下)
- 11月16日 田んぼにお腹の大きなアカガエル(高山)
- 11月21日 日だまりにナツアカネが集まっていた。シロハラ姿を見かける(高山)
- 11月23日 暖かな日差しに誘われるように田んぼにアキアカネ、マユタテアカネ、オオアオイトンボが飛ぶ(高山)
- 11月24日 斜面林の縁でルリビタキとミヤマホオジロを見る。ひそかにリンドウが咲く(高山)



冬の使者 カシラダカ
(小山にて2008.11/30 高山邦明)

下大和田

- 11月18日 林の中にスポンタケとヒラタケが出ていた(網代)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

第91回 下大和田 YPP「収穫祭と古代米のもちつき」

毎年恒例の収穫祭と古代米もちつきを今年は一度にします。緑米をつかって臼と杵でペタン、ペタン、もちつきをしたり、お釜でコシヒカリを炊いて試食したり、今年の収穫を味わいます。谷津田運動会もしますのでお楽しみに！米づくりに参加した方も来年から参加してみたいなと関心のある方もぜひ参加下さい。

日時: 2008年12月21日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、敷物、お椀・箸・皿など。

参加費: 500円(食材費を含む特別料金となります)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第39回 小山町 YPP「初冬の自然観察」

谷津に霜が降りる季節になりました。トンボやカエルの姿はなくなりましたが、冬の渡り鳥たちでにぎわっています。ゆっくりと谷津を歩いて初冬の自然を観察しましょう。

日時: 2008年12月13日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 帽子、長靴、軍手、飲み物、敷物、もしあれば双眼鏡など

参加費: 100円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター

第108回 下大和田 1月の谷津田観察会とごみ拾い

冬鳥の季節です。バードウォッチングをメインに谷津田の自然を観察します。

日時: 2009年1月4日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

下大和田 YPP「どんど焼きと昔あそび」

年明け最初の下大和田 YPP は1月18日(日)開催です。詳細は来月号の谷津田だよりをご覧ください。

編集後記 古代米の脱穀が終わり、下大和田も小山も今年の田んぼでの作業がすべて終わりました。田んぼでポツンと立っているかかしの姿が寂しげです。でも、一方で冬は大陸からはるばる渡ってきた冬鳥をはじめ、北日本や山地から避寒に訪れた鳥たちなど様々な野鳥でにぎわう季節です。林の木々が葉を落とすので観察にも絶好。今年はどんな鳥たちに出会えるのか楽しみです。

(高山邦明)